

光触媒で鳥インフルエンザ対策

県は新年度、鳥インフルエンザ対策として、光触媒装置を用いたウイルス除去試験を実施する。鳥インフルエンザの感染が確認された養鶏場では、飼育する全ての鶏が殺処分されるため、畜産農家へのダメージは大きい。ウイルスや菌を分解する光触媒による感染対策の効果に期待がかかる。

(山田珠琳)

県、新年度ウイルス除去試験



奈良特産の地鶏「大和肉鶏」 県提供

大阪の会社や東大チーム協力

今シーズンの全国の感染状況は、2024年10月5日～今年3月13日に14道県で51件発生し、約932万羽が殺処分となった。例年1月にピークを迎えており、25年1月は34件発生し、過去最多の約648万羽が殺処分された。

鳥インフルエンザの感染が確認されると、感染拡大を防ぐために家畜伝染病予防法に基づき養鶏場の全ての鶏が殺処分される。県内では、11、20年に五條市で感染が確認されたが、発生件数は全国の中では比較的少ない。しかし、ひとたび感染が拡大すれば県産の地鶏「大和肉鶏」に大きな影響を与

える可能性がある。とりわけ、県畜産技術センター(宇陀市)では、大和肉鶏を生産するのに必要な全3種(シヤモ、名古屋種、ニューハンプシャー種)約800羽を飼育しており、インフルエンザで原種鶏が死滅すると壊滅的な打撃を受ける。

今回の試験は、同センターと、光触媒技術をもつ「カルテック」(大阪市)、東京大学の研究チームによる3者が協力して実施。光触媒は酸化チタンなどが主材料で、光を当てると空気中のウイルスや菌などを分解する性質がある。

試験では、光触媒を用いた除菌脱臭機をセンター内の養鶏場に設置。鳥インフルエンザに似たワクチンを養鶏所内に噴霧し、大和肉鶏の血液を検査してウイルス抗体の有無を検査する。抗体がなければ、ウイルスを除去できていることを示すため、本格的な導入を検討する。

本格的な試験は秋以降に

失職免除条例案を撤回

三郷町議会 「町民の理解得られない」

「など」と主張。反対の議員からは「町を挙げて不祥事からの信頼回復に取り組んでいる時期で、町民の理解を得られない」などの意見が出された。議

色とりどり造花運び出し

花会式前に「お花取り」



造花を運び出す前に読経する僧侶(奈良市で)

奈良市の薬師寺で25日から営まれる修二会(花会式)を前に、本尊・薬師三尊像に供える造花を代々作る家から寺へと運ぶ「お花取り」が17日、行われた。

花会式は平安時代、堀河天皇が皇后の病氣平癒を祈り、回復後に感謝して造花を供えたのが由来とされる。現在、10種類約1700本の造花作りを、寺と関わりの深い市内の2世帯が担う。

このうち、増田茂世さん(62)宅では桃やユリなど4種類計720本を1年がかりで準備した。この日、増田さん宅を訪れた僧侶らが仏壇の前で読経した後、色とりどりの造花を運び出した。増田さんは「お薬師さんへの感謝を込めて用意した。きれいに咲いている、とじてもらいたい」と話した。

行を勤める僧侶「練行衆」は、最高位・大導師の加藤朝胤管主ら10人。他の配役は以下の通り(敬称略)。
 咒師 高次喜勝▽堂司 生駒基達▽大衆 松久保伽秀、小林澤應、村上定運、中村随輝、山田瑛照、松久保了善、小倉達洞

始める予定で、県は新年度当初予算案に事業費として263万円を計上した。カルテックの幸崎正登・要素技術開発統括部長は「家庭などの空気を洗浄する製品がメインだったので、食に貢献したい」と話している。

て、市は賃料を固定資産評価額の4%として、同団体と30年契約を結んだ。だが、地域経済の発展に寄与する同団体の公益性に配慮し、6年間は賃料を免除、その後、1・5%に落ち着いたが、その後、民事調停を申し立てることにした。

市は24年度の本来の賃料368万円のうち、支払われた1・5%分の138万

した写真は不可。

5月上旬に審査を行い、最高賞の「ポスター賞」などを選出する。入賞作品は同協会のホームページで紹介するほか、「月ヶ瀬梅の